

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。

なお、この研究の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の試料（例：血液など）や診療情報（例：カルテの情報など）をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡下さい。

《試料・情報の利用目的及び利用方法》	●研究の名称 難治性潰瘍性大腸炎に対する内視鏡的・組織学的寛解と予後予測の相関性についての後方視的観察研究
	●研究の対象 2022年1月～2024年6月に当院で治療を受けた難治性潰瘍性大腸炎の方 50名
	●研究の目的 潰瘍性大腸炎は再燃と緩解を繰り返し慢性に経過する腸疾患です。潰瘍性大腸炎の治療目標は患者様の腹痛や下血などの症状を抑えることだけでなく、腸粘膜の炎症を抑えることにあり、治療目標の達成はその後の安定した経過に繋がることが分かってきました。 近年、有効な治療薬として潰瘍性大腸炎に対して複数の生物学的製剤が使用可能となり、治療目標を達成できる症例も増えてきました。そして大腸内視鏡検査での粘膜の改善のみならず、大腸で採取した粘膜が顕微鏡レベルでも治癒していることはさらに良い経過につながることも報告されるようになりました。 今回の検討では内視鏡における粘膜の治癒した患者で大腸粘膜を採取した病理組織における治癒を評価し、その後の病状の経過との関連性を評価し、潰瘍性大腸炎の治療の最適化につなげるための情報を検索することを目的としています。
	●研究の期間 研究機関の長による実施許可日 から 2029年7月まで
	●利用又は提供を開始する予定日 研究機関の長による実施許可日
●他の機関に提供する場合には、その方法	

	この研究では外部へ試料・情報を提供しません。
《利用し、又は提供する試料・情報の項目》	●研究に使用する試料・情報 情報：病歴、治療歴、検査結果歴，臨床経過 等
《利用する者の範囲》	●機関名および責任者名 研究機関：浜松医科大学 内科学第一講座 教授 杉本 健
《外国にある者に対する試料・情報の提供》	この研究では外国にある者へ試料・情報を提供しないため、該当しません。
《試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称》	国立大学法人浜松医科大学
《試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止（受付方法含む）》	あなたの試料または情報を研究に使用することや、他の研究機関に提供することを望まない場合には、問い合わせ先まで連絡をいただければ、いつでも使用や提供を停止することができます。連絡方法は、以下《問い合わせ先》をご確認ください。
《資料の入手または閲覧》	この臨床研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じて資料の要求または閲覧ができます。あなたのご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲内で、あなた自身にあなたの結果をお伝えします。希望された資料が他の研究対象者の個人情報の場合には、資料の提供または閲覧はできません。
《情報の開示》	あなたご自身が研究の概要や結果などの情報の開示を希望される場合は、他の参加者に不利益が及ばない範囲内で、原則的に結果を開示いたします。しかし、情報の開示を希望され

	<p>ない場合は、開示いたしません。 また、本研究の参加者以外の方が情報の開示を希望する場合は、原則的に結果を開示いたしません。</p>
《問い合わせ先》	<p>〒431-3192 浜松市中央区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学</p> <p>部署名： 内科学第一講座</p> <p>担当者： 高橋 賢一</p> <p>TEL： 053-435-2261</p> <p>E-mail： k.taka@hama-med.ac.jp</p>